

## 随筆

# モスクワ駐在記

手塚 宏美

## 1. はじめに

私は2013年に入社して以来、海外販売会社向けの市販製品を取扱う市販統轄部に所属している。日本では海外販売会社からの引合いを受け、開発進捗や業績の管理さらに訪日來客アテンドを主に行っている。直接の顧客はグループ販売会社となるが、日本では販売会社の営業活動を把握するのに限界があり2016年9月から3カ月欧州販売会社の本部であるKYB Europe GmbH（以下KEUドイツ）で実務研修に参加した。

実務研修に参加する前は岐阜北工場で2年間、本社で2年間勤務しこの4年間のなかで製品知識や製造工程など製造業としての基礎知識を身に付けた。研修に参加することで、販売会社が客先の要求に対して効率良く対応し拡販活動を行っていることを学ぶことができた。その後の異動で2017年7月から約2年ロシアの販売拠点KYB Eurasia（以下KER）に駐在した。本報ではロシア駐在の体験をいくつか紹介する。

## 2. ロシアについて

国土面積は、日本の約45倍で国内時差11時間と世界最大であるロシアは、83の共和国や州で構成される連邦国家である。人口は世界第9位（約1億4600万人）民族構成は80%がロシア人、それ以外にタタール人など180を超える多民族が暮らしている。私の滞在していた首都モスクワは人口約1250万人と欧州で最も人口の多い都市として知られている。日本人は駐在員とその家族、留学生も含めて約2000人が在住している。大都市だけあって交通網は整理されているが、渋滞がひどく運転の荒いドライバも多いことから交通事故発生率は日本の5倍以上である。

ご存じのように旧ソ連の首都でもあり、街の中心に位置する赤の広場にはソ連の建国者であるレーニンが今でも防腐処理された状態で眠っている。ソ連崩壊後28年以上経過しているが、街中には共産主義を連想させるような建物が数多く残っている（写真1, 2）。

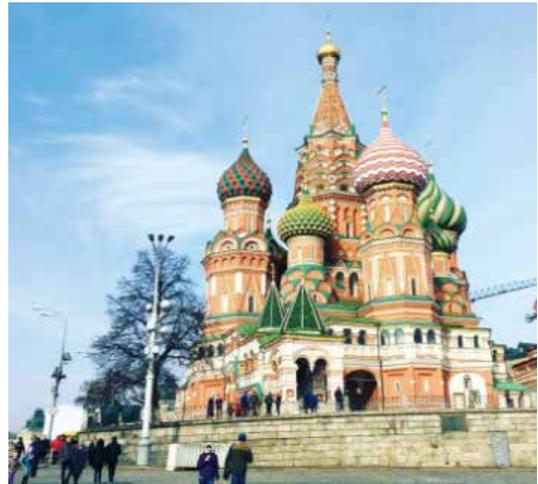


写真1 聖ワシリイ大聖堂



写真2 ロシア建設省（スターリン建築の1つ）

## 3. 業務と日常生活

KERはモスクワとウラジオストックの2拠点体制で日本人拠点長と私の他、ロシア人従業員30名で構成されている。私の業務はロシア及びCIS（旧独立国家共同体）5か国向け市販ショックアブソーバとコイルスプリングの購買および在庫管理である。主

な調達先はKYBのグループ生産拠点で、定期的にKYBSE (KYB Suspensions Europe, S.A) やKCME (KYB Chita Manufacturing Europe) また業務上関わりが深いKEUドイツへ出張し打ち合わせを行っていた。赴任から1年後ロシア人部下1名を持ち、初めて人をマネジメントする機会も与えられた。日本では外国人の部下を持つ機会はなかなかなく貴重な経験だったが、同時に人をマネジメントする難しさも痛感した。

日常生活の面では1年の半分以上が冬で寒さには次第に慣れてくるが、日照時間が短く暗いのは気が滅入ることであった。赴任後初めての12月は月間日照時間が僅か6分と歴史上最も暗い12月となり、1日中太陽の見えない日がほとんどだった。

オフィスを離れると英語が通じないため、週2回ロシア語のレッスンを受講していた。ロシア語は単語が多く表現も豊かな美しい言語であるが、独特の文法は非常に難解で習得に苦労した。

2018年のFIFAワールドカップはロシアで開催され、この期間は外国語が飛び交っており、これを機に英語表記が街中に急増したように見えた。日本代表の試合は見られなかったが、モスクワで予選リーグを2試合、サンクトペテルブルグで3位決定戦を観戦することができた。



写真3 ワールドカップ予選リーグ  
(チュニジアvsベルギー)



写真4 開催期間中の1ヵ月間はお祭り騒ぎ

#### 4. ロシア芸術文化

ロシアの芸術と言えばバレエを真っ先に思い描く方もいるのではないだろうか。ロシアではバレエダンサーは公務員と見なされ、一流のダンサーは国から生活が保障されている。バレエ自体がとても身近で演目によっては子供達もおしゃれをして劇場に来ている。私も駐在期間中はボリショイ劇場(写真5)をはじめ、様々な劇場で延べ10回近くはバレエを鑑賞した。決して詳しい方ではないが、オーケストラの生演奏や躍動感あるダンサーの動き、華やかな劇場は別世界へと導いてくれる。バレエは冬がメインで、ロシア人も暗く寒い冬はバレエを鑑賞して楽しんでいる。



写真5 ボリショイ劇場内部

日本で人気のフィギュアスケートはロシアでも大人気で、一度グランプリシリーズも観戦に行ったが羽生結弦選手の知名度は圧巻だった。自信に満ちたパフォーマンスに加え、演技終了後には、くまのプーさんのぬいぐるみが雨のように降り注いでいた。

バレエやスケートと並び、ロシアではサーカスも人気である。世界のサーカスでは動物愛護の観点から動物をサーカスに使うことは控える傾向にあるが、ロシアのサーカスでは今でも動物がたくさん登場する。私が見に行ったサーカスでは何やら会場からは犬猫とは違う獣の臭いがしており、不思議に思っているとプログラム後半に6頭のライオンが登場し、臭いの元が判明した。6頭の繰り広げる巧みな芸はとても見応えがあった。今後ロシアでも動物の使用を控えるような動きになるかもしれないが、レベルが高いので一見の価値はある。

#### 5. アクティビティ

運動不足解消のため、主に日本人駐在員のランニング好きが集まるマラソンサークルに所属していた。

毎週水曜日にモスクワ川沿いを一緒に走った後、栄養補給という名目で一緒に食事に行くことも多く、他の日本人の方々とも楽しく交流できる場だった。それまで長距離走は苦手だったが、練習を重ねモスクワのハーフマラソンに2回、フルマラソンに1回出場した。フルマラソンはもちろん人生初挑戦で緊張と不安でいっぱいだったが、モスクワの中心地を巡る素晴らしいコースで普段は渋滞の街中を走って回ることができたのはとてもいい思い出である。5時間かけて完走できた翌日は歩くのもままならなかった。

また、帰任間際にバイカル湖で毎年3月に行われるアイスマラソンにもエントリーした。「シベリアの真珠」と言われる世界遺産バイカル湖の東湖畔からリストビャンカまで走り切るフルマラソンだ。(私が出場したのはハーフの22km)氷点下の厳しい気温の下、凍結した湖面を走る厳しいマラソンのため、安全確保の観点から出場者は僅か130名に限定される過酷なレースである。今年はスタート直後に雪で足がすくわれ、強い横風も吹きつける厳しいコンディションだったが、幸い私が所属するサークルから参加した10名は私も含め全員無事完走し参加者全員での親睦会も大いに盛り上がった。



写真6 サークルのメンバーとブラックアイスの上で



写真7 湖面の移動はフォバークラフトで

## 6. 旅行

もともと旅行好きだったが、日本からでは行きづらい場所であってもモスクワからだとアクセスがいいので時間を見つけては旅に出ていた。特に旧ソ連の国々ではロシア語が通じるので、現地の方と片言のロシア語でコミュニケーションが取ることができた。旧ソ連の国々を含めて印象的だった場所を3つ紹介する。

### 6.1 アゼルバイジャン (バクー, ゴブスタン)

モスクワから直行便で約3時間、バクー油田など天然資源が豊富であることから急速に発展した国で「第2のドバイ」と呼ばれている。北海道くらいの小さな国土に亜熱帯、日本のような温帯、コーカサス山脈などの寒冷帯という様々な気候帯が存在しているのが魅力である。首都のバクーは乾いた大地からの油田採掘が続いており、辺りは油の匂いが漂っている。一方、ゴブスタンはバクーから60km離れた半砂漠地帯で先史時代の遺跡が見事で、5000年以上前の人類や動物文様といった多彩なロックアートがある。これだけ貴重な遺跡はもう少し管理・保護した方がいいのではと思う程、間近で見学できた。岩の中には貝殻も多く見られ、昔はこの一帯が海でとても



写真8 風の街という意味の首都バクー

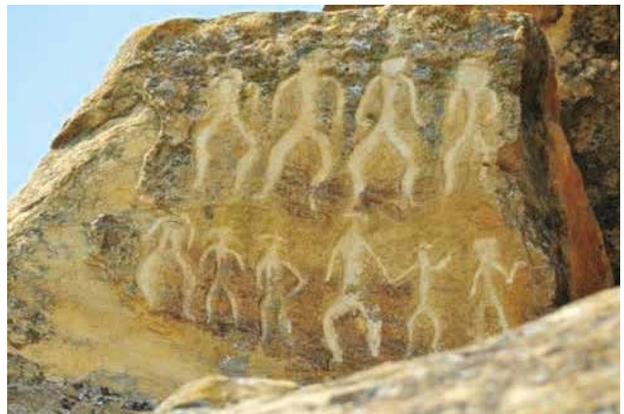


写真9 ゴブスタン遺跡のロックアート

恵まれた地域であることも実感できた。現地の特産品である赤ワインも絶品である。

## 6.2 ヨルダン（ペトラ遺跡）

ヨルダンのペトラ遺跡は世界遺産に登録されており、映画「インディージョーンズ最後の聖戦」の舞台として有名だ。このペトラ遺跡は2000年以上前にこの地に定住したナバテア人が岩壁を削り建てた大都市で、岩肌は光によって色が変わり、とても神秘的な雰囲気に包まれている。とても広大な遺跡で歩いて全てを見学するのは大変なため、途中ラクダに乗って移動する観光客も多い。ライトアップのイベントも行っているようで、いずれはライトアップしたペトラ遺跡も見てみたいと思っている。

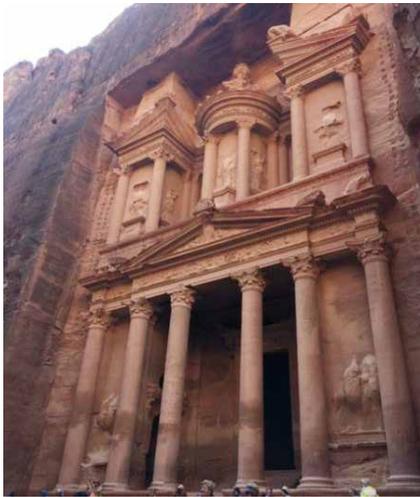


写真10 ペトラ遺跡 宝物殿

## 6.3 ロシア ムルマンスク

最後はロシア北極圏の最大都市だ。あまり聞き慣れないこの都市はモスクワから北に約2000km離れた人口30万人の都市で、フィンランドのすぐ傍である。冬は12月～1月は極夜、5月～7月は日が沈まない白夜という特殊な環境で、ムルマンスクにあるマクドナルドが世界最北のマクドナルドとしてギネスブックに登録されている。味は一般的だった。

この地を訪れた目的はオーロラを観に行くこと

だった。郊外の観測地点に向け、友人と食材を買い込み気合を入れ移動を試みたものの、大雪で道が通行止めとなり施設に行くことさえできなかった。3月では時期が遅く、1月～2月がベストシーズンのようなのだ。オーロラ鑑賞はカナダや北欧が人気であるが、ムルマンスクを訪れてみるのもいかがだろうか。私も是非リベンジしたい。



写真11 世界初の原子力砕氷艦レーニン号

## 7. おわりに

この約2年は仕事面、生活面でも非常に充実しており、倒れるのではないと思うくらい活発に動き回った日々だった。日本とは異なる仕事内容や環境に悩み戸惑うことも多々あったが、周りの人々にたくさんアドバイスを頂き助けてもらった。まさかロシアで生活するとは思ってもいなかったが、日本ではなかなか報じられないロシア人の日常を垣間見ることができ、多くの友人にも恵まれた。このような機会を与えてくれた関係者の方には感謝申し上げる。

ちょうど2018年は日露交流の年で、様々な交流イベントが開催された。今後さらに日露の関係が友好的なものになることを望んでいる。

Большое вам спасибо за вашу поддержку.

Я желаю вам всем всего наилучшего!

## 著者



手塚 宏美

2013年入社。オートモーティブコンポーネンツ事業市販統轄部。KERを経て現職。